

2009年06月19日

## 米国ストーニーブルック大学生と討論会

---

今年も、米国ニューヨーク州立ストーニーブルック大学の留学生が、三島キャンパスを訪れています。

滞在中のストーニーブルック大学生を招いて、討論会を行いました。

用意したトピックは「世界的不況と就職難」だったのですが、話題はいつの間にか、「バイトで支える大学生活」という切実な問題に。日米双方の学生が、熱く語り合いました。



「私たちの将来はどうなるのか。不安や期待を分かち合いましょう」と司会者のごあいさつ。



「就活が困難というより、今のアメリカではバイトを見つけるのすら大変なんです」

—この発言がきっかけで 双方は互いを質問攻めに。



「時給は？」「シフトは簡単に変えられるの？」「授業料の足しになる？」「交通費はでる？」

ディスカッションを企画した交流学科小代ゼミの学生は、

コンビニ・100円ショップなどでのバイトが多く、

ストーニーブルックの学生はキャンパス内のバイトが多いようです。



「深夜早朝のバイトなので授業との両立がキツイ」「接客で怒鳴られっぱなし」

「今のバイトは嫌いだけど、やめたら次のが見つからないし」

「バイトで得られるものって何？」「卒業後のキャリアとの関連性が何もない」

… 悩みは日米共通。



「アメリカ人はよくパーティーするんでしょう？」「まさか、週末は疲れて寝るだけ」  
「バイトのつらさは、寝て解決だよね」・・・日米双方、しんみり。



「ファッションにかかる予算？ 限りなくゼロっ！ これで十分っ！」  
と言ったのは日米どっち？



2時間半悩みや苦勞を分け合って 和氣あいあい。



「プロ野球の試合中のバイトなんて、いいなあ」。  
さてこの2人どちらが、何の仕事をしているでしょう。



何やらまじめな立ち話。「…そのバイト、自分にも紹介して…」(?)



毎年ストーニーブルック大学の学生さんを引率する長瀬先生、  
アメリカのみなさんに「来年も真剣勝負の話しをしましょう」と伝えてください。  
本当に楽しかったです。

投稿者: | [パーマリンク](#)